

[ベリーズ]

先生が教えやすい 指導書を作ろう！

楽しそうに体育の授業を受ける子どもたち。中米ベリーズでは、先生が分かりやすい授業を行うための指導書作りが青年海外協力隊の支援で進められている。

文・写真 = 奥野 歩 (海外ライター)
text & photo by Okuno Ayumi

Close Up!

ジャイカの
あしあと



「はい、次！」 担任の先生から次々に回ってくるパス。楽しそうな歓声が響いているのは、ベリーズの小学校1年生の体育の授業だ。実は、この子どもたちの笑顔の陰には、青年海外協力隊のひた向きの努力があった。ベリーズに派遣されている隊員には、学校に配属された者が多い。職種は「小学校教諭」「体育」「音楽」「美術」「PCインストラクター」などで、隊員は主に子どもたちに直接授業を行っている。彼らが2007年2月から進めてきたプロジェクトがある。現地の先生へ向けた「指導書作り」だ。隊員が去った後も現地の先生たちで授業ができるようにという考えから始まった。各教科の隊員が協力し、先生にとって使いやすく指導しやすいようなマニュアルを作成することになったのだ。

「、マット運動など10種類の教科内容に分かれ、生徒の並ばせ方や体の動かし方など、絵を多用しながら詳しく説明してある。「文字だけの指導書では、現地の先生たちに限界があつたんです」と浦野さんは話す。ほとんどの先生は、体育の授業を受けて育っていない。そのため、文章中心の従来の指導書は、簡単なストレッチャでもどこをどのように伸ばす運動なのか分かりにくかつたそうだ。浦野さんが活動している小学校では、この指導書を使って先生たちが体育を教え始めた。「とても分かりやすく教えてやすいわ」。担任のウィリアム先生もそう感想を述べる。「指導書に使われている写真はベリーズの子どもたちだし、親近感が持てるのよ。」

ベリーズ隊員の積極的な活動は、現地の人たちにしっかりと受け入れられ、子どもたちのほじける笑顔にもつながっている。

